

交換留学報告書

派遣先	
三重大学での所属学部・研究科	人文学部 法律経済学科
学年(出発時)	4年
大学名	中央大学校
国	大韓民国
留学期間	1学期
派遣先での身分	交換留学生

一日の生活スケジュール(通学時)	
	記入欄
8:00	
9:00	
10:00	授業
11:00	授業
12:00	昼食
13:00	
14:00	カフェで勉強
15:00	～
16:00	授業
17:00	～
18:00	～
19:00	夕食
20:00	
21:00	帰宅
22:00	
23:00	
0:00	

履修科目				
科目名	時間数/週	履修単位	使用言語	授業内容(レポート、試験、授業形態等)
経営学言論	3	3	韓国語	毎週課題が課されPPT形式でまとめて提出。定期試験はオンライン上で15分間に約20問の問題を選択式で答える。
Korean History and Culture	3	3	英語	留学生のみが受講する韓国の歴史と文化についての授業。チームプロジェクトは各チーム自由に設定した韓国の文化についてその歴史と文化・現代におけるその文化の意味について20分間のプレゼンテーションがある。試験は中間期末共にレポートで、韓国の文化についてwordファイル2枚以上を提出。
航空運送物流	2	2	英語	課題はなく中間期末試験と出席チェックがある。試験はオンライン上で答えるテスト。
Korean and Global Business	3	3	英語	80代の教授の講義。試験はなく、中間期末の2回に渡ってレポートの提出あり。

大学のサポート	
チューターの有無	あり。GLAMというサークルがあり、そのメンバーが留学生を担当。1人につき5～15人の留学生を担当。言語は主に英語。
チューターのサポート内容	メンバーによって違う。基本的に、現地のメンバーが担当している留学生メンバーとご飯を食べたりするようだが、私の場合は、一度も会わず、必要な連絡事項以外の連絡はなかった。
語学コースの有無	留学生が韓国語を学ぶ授業があると聞いたが、私は受講していなかったので良くわからない。語学堂に通う場合は別途料金が必要である。
コース名、料金、期間等	交換留学生は語学堂の料金が少し割引される。

生活	
住居のタイプ	寄宿舍
住居の名前	ブルーミルホール308
部屋タイプ	2人部屋
ルームメイト(国籍)	新型コロナウイルスのため、1人で使用
室内設備	トイレ、シャワールーム、洗面台、クローゼット、ベッド、勉強机、ゴミ箱、エアコン、床暖房
共用施設	冷蔵庫、電位レンジ、アイロン
インターネット設備	あり
大学までの交通手段(交通機関、所要時間)	大学構内に寄宿舍あり
アルバイトの有無	なし
アルバイトの内容	

渡航	
Visaの種類	D-2
Visa申請先	名古屋にある韓国大使館
Visa取得にかかった日数	4週間
Visa取得にかかった費用	特になかったと思うが、計2回大使館までの交通費や残高証明発行なども諸々必要
Visa取得方法、提出書類等	提出書類をインターネットで調べ準備、大使館に提出し、約4週間後に受け取り。提出書類は非常に複雑なので、インターネットで調べたり大使館問い合わせしっかり確認する必要あり。
留学先大学の最寄り空港までの経路	津なぎさまちー中部国際空港セントレアー仁川国際空港
渡航費用	片道35000円(新型コロナウイルスの影響で高めでした)
ピックアップサービスの有無	

帰国後	
留年や卒業の遅れの有無	留年
有る場合、その理由	4年で卒業できましたが、留学中に卒業論文を準備することが難しく、1年伸ばすことになりました。
就職活動開始時期	5回生3月
帰国後の進路	

留学にかかった費用	
現地通貨＝日本円(約)	100円＝1000ウォン
保険料(海外旅行保険、国民健康保険等)	なし。私の場合三重大学で加入していた生協の保険で適用できたため
学費(教科書代や語学コース授業料等)	教科書代のみ
宿舍費(月額)	4万円ほど
光熱費(月額)	なし。(家賃に含まれる)
食費(月額)	約4万円
その他	生活用品の購入
留学期間中にかかった費用の合計	100万円

感想等(※800字以上で語学勉強の成果についての内容も含め、ご記入ください。)

コロナ以前の留学とどうしても比較してしまう部分があるため、コロナ以前と比べると非常に惜しい環境ではありましたが、その中でも最大限自分の可能な範囲でたくさん学びたくさん成長した4ヶ月であったと思います。

まず授業についてですが、授業が全てオンライン形式でした。そのため、大学構内の寄宿舍で生活していても教室に行く機会がないので、同じ授業を受講している学生との交流がほぼなかった点が惜しいと感じました。ただ、オンラインでしたので、カフェや図書館といった多様な場所で授業を聞くことができ、新しい形で勉強できたことがとても新鮮でした。また、授業を通してほかの学生と完全に交流がなかった訳ではなく、ある授業ではチームプロジェクトが課されたため、ほかの留学生と集まってプレゼンテーションを作る機会がありました。コロナ禍であってもその環境の中で最大限学びを広げられたのではと感じています。

友達はと言いますと、友達を作るのが大変難しかったです。というのも、国際交流サークルが新型コロナウイルスにより活動が中止されており、また留学生が多く住む寄宿舍の共同スペースは人が群れないよう全て立ち入り禁止またはテーブル・椅子の撤去が行われており、仲良くなる機会はおろか出会う機会すらコロナ以前の留学に比べて少なく、SNSを通して同じ大学の留学生と知り合い、仲良くなるという方法が一般的に取られていました。しかし、自分から行動すれば自ずと友達はできるもので、コロナ禍ではあってもたくさんの新しい友達ができました。ただ、韓国政府の政策である社会的距離の確保により午後6時以降は2人まで・4人まで等様々な規制があったため以前のように大人数で遊びに出かけたりすることはできませんでしたが、それでも非常に有意義な留学生活でした。

語学力につきましては、英語・韓国語両方の語学力が向上したと実感しています。韓国語で会話の通じる交換留学生はほぼおらず、基本的に全て英語で会話のため、英語力を向上せざるを得ません。また授業でも英語で行われる授業を受講していたため、普段から英語に触れる機会が増え、非常に力になったと感じています。また、韓国語につきましては、現地の方々との交流を通して、さらに向上したと実感しています。留学の大きなメリットとして、現地で実践的にその国の言語を学べるのが挙げられますが、まさにそのメリットを十二分に活用し自分のものにできたのではないかと思います。

留学後は、今回学んだ語学力をさらに発展させ、韓国語能力試験・TOEICを受験する予定です。

今後留学する人へのアドバイス

まず、コロナ禍の留学ということで準備が非常に複雑でした。国際交流チームへの提出書類、ビザ申請の提出書類、様々な準備が必要で非常に時間がかかりました。さらに、ビザ・留学先の大学全て許可が出た後も、国際交流チームの方々が安全を重視し考慮を重ねられており留学許可を出発4日前にいただいたため、直前での航空券の購入やホテルの手配等、直前までバタバタした入国でした。飛行機に乗るための自費PCR検査や、韓国入国後の隔離施設、韓国保健所の電話番号やもし新型コロナウイルスに感染した際の流れ等についてもあらかじめ理解し報告する必要がありました。ですので、コロナ禍に留学する方はさらに余裕を持って準備されることをお勧めします。その他アドバイスについては2019年韓国梨花女子大学留学報告書の方をご覧くださいと思います。

報告書記入日

2021年 12月 21日